

『演習 保育内容 **言葉**—基礎的事項の理解と指導法—』モデルカリキュラム対応表

モデルカリキュラム「幼児と言葉」における到達目標と本書の対応項目

＜全体目標＞

当該科目では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。

(1) 言葉のもつ意義と機能	
＜一般目標＞	
人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。	
＜到達目標＞	本書の対応章
1) 人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。	第1章
2) 乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。	第2章
(2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践	
＜一般目標＞	
言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。	
＜到達目標＞	本書の対応章
1) 言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	第1・7章
2) 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	第1・10章
3) 言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	第1・3・7章
(3) 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財	
＜一般目標＞	
幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。	
＜到達目標＞	本書の対応章
1) 児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける。	第10章
2) 幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	第10章

モデルカリキュラム「保育内容「言葉」の指導法」における到達目標と本書の対応項目

<全体目標>

領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1) 領域「言葉」のねらい及び内容	
<一般目標>	
幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。	
<到達目標>	本書の対応章
1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。	第3章
2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	第3～9章
3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	第3～9章
4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。	第3・6・8章
(2) 領域「言葉」の指導方法及び保育の構想	
<一般目標>	
幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	
<到達目標>	本書の対応章
1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。	第3・6～8・11章
2) 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。	第10・11章
3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	第11章
4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。	第3～9・11章
5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。	第3～9・11章

(株)建帛社